

これからの地球を 生きてゆく 子ども達の ための保育

幼稚園のアクティブ・ラーニング

プロジェクト活動について

荒尾第一幼稚園



遊びの中の学び

遊びの始まり

気づく、感じる、関心を持つ、やってみる。

知識や技能の基盤となる

頭と体のネットワークができていきます。

不思議に思う、好きになる、試す、考える。

思考力、判断力、表現力が働く

頭と体のネットワークがさらにできていきます。

継続して取り組むなどして、新しいことが見えはじめ、

粘り強さが生まれます。友達と**協力**していくことの楽しさを学びます。

心情・意欲・態度がネットワークの働きを支えています。

課題を解決していく力 学びに向かう力



実例掲載



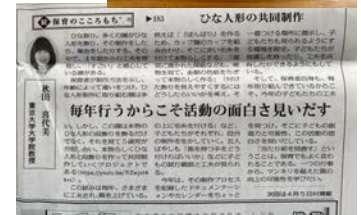
保育雑誌掲載 PriPri



執筆を担当させていただきました。 P.70、P124



刊行記念セミナーに登壇させていただきました。



有名な保育エッセイに取り上げていただきました。「雛人形共同制作」P.110とP112

荒尾第一幼稚園の実践

子どもたちのウェルビーイング

荒尾第一幼稚園では、さまざまな物や事象、素材に触れ、それらを創造的に活用する活動や協力し問題を解決する能力を養う活動を積極的に取り入れています。それは人工知能の進化や気候変動、社会状況など、未来が予測困難な時代において、たくましく生きていく子どもたちを育てるためにです。

荒尾第一幼稚園は、より良い保育を目指して十年間、「主体的・対話的で深い学び」の実践と研究を行い、保育の質を向上させてきました。近年、その実践を保育雑誌などに何度か取り上げていただく機会がありました。実践を動画で配信したところ、保育者養成の大学・短期大学の授業や全国の保育者研修で使用していただく機会もありまし

た。文部科学省「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」の配布資料(幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの 参考資料(初版))に本園の実践が掲載されました。

これらの「プロジェクト活動」で学んだことをこの冊子にまとめて、更なる保育の質向上の土台にしたいと考えています。『遊びの中の学び』は、世界中が取り入れ始めている今の時代にあった最善の教育です。子どもたちの目が輝く実践をこれからも探っていきます。



文部科学省「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」の配布資料(幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの 参考資料(初版))P39、40
サイズが大きいのでWIFIの環境でのアクセスをお勧めします。9.4MB

世界の国々が入り込んでいる実践 協同的探究の活動 アクティブ・ラーニング



雛人形協同制作「認め合い」 5歳児2月



YouTube動画リンクQRコード



雛人形協同制作「深い学び」 5歳児

プロジェクト活動について

荒尾第一幼稚園の子どもたちは廃材や素材をテープで繋げて、自分の思う物を作ることが得意です。

そこで今度は『1人で作る製作物』から『友達と一緒に作る製作物』や『友達と相談して、試行錯誤しながらより良いものを作る体験』ができる保育環境を目指してきました。これらが盛んにみられる活動は「プロジェクト活動」と呼ばれるものです。

最初は行事等をきっかけとした「特別なプロジェクト活動」として取り組み始めました。内容は雛人形の協同製作や人形劇映画製作などです。



お店のガラスケース



人形劇映画製作「空から降りてきた階段を登る」シーン
5歳児6月

から傘おぼけの工夫

5歳児5月



傘が下がりすぎる



下がりすぎないように工夫



完成!

プロジェクト活動では
課題を解決するために工夫し、
粘り強く取り組み、友達と協力する場面が起きやすい。

荒尾第一幼稚園が気づいたこと

「大切な体験」

数日間続く活動の中で、子どもたちは課題を解決するために工夫し粘り強く取り組み、友達と協力する姿が見られました。この活動は子どもたちの育ちにとって「大切な体験」があると私たちは感じました。

そして今度はさらに、この「大切な体験」を生み出す「プ

ロジェクト活動」を、日常生活の中でいつでも見られるようにならないか考えるようになりました。子どもたちの興味が数日間続く活動、展開があり、友達に広がり、協同的な活動になっていく。またより良くなっていくなど深まりのある活動です。

街を作る 4歳児3月



線路を作る



山を作る



高架線をつくる

特別なプロジェクト活動



三人官女 加えの銚子

細部まで気付き、気づいたことを形にする。
頭の大きさや体の大きさ、バランスも意識する。

女兒 6.5歳

雛人形協同製作 課題を解決する力と友達と協力する力を育む

年長組3学期(2月から3月)、身近な廃材・素材を使って、実際の七段飾りの雛人形と同じ大きさの雛人形を作る2週間の継続した協同製作。この期間、朝の集まり、昼食、帰りの集まり以外、**子どもたちの時間の使い方を自由**にしている。園の行事、雛祭り集会までに雛人形完成させることを目標とした活動。目指す子ども像を『共通の目的に向かって友達と一緒に取り組む』とし、協力すること、見通しを持って計画して生活すること、思いや考えを友達に伝えることをねらいとしている。また、製作に入る前は「誰が何を作る」などといった役割は決めておらず、製作の過程で必要に応じて子ども達同士が話し合っ

て決めるようにしている。



完成した七段飾り

工夫・協力・粘り強さ・時間の使い方



YouTube動画 工夫
リンクQRコード



工夫



履き物



粘り強く再現



木を立たせるための工夫



粘り強く

荒尾第一幼稚園が気づいたこと

活動を深めるために改善してきたこと

1.子どもを繋げる教師の言葉掛け

子どもが必要感を持って、友達と相談したり協力できるようにした。

・ドキュメンテーションの効果

友達の作り方を知ったりする機会になっている。よって同じ作り方で作ってみたり、分からない時はその友達に自分から聞いたりする姿が増えてきた。教師の言葉掛けをする機会が少なくなってきた。

2.進行状況の見える化

子ども達が目で見てどれくらい製作が進んでいるのか分かるようにした。

3.具体的な目標の見える化

・当初は「お内裏様を作るのを頑張る」などと抽象的な目標の立て方だった。「今日はお内裏様の何を作る?」「お内裏様は、あと何を作れば完成?」などと保育者が具体的に聞くようにした。

4休憩場所

ドキュメンテーションや作り終わった物、まだ誰も作っていない物を置き、情報を知る場所とした。それを見て友達の頑張りや工夫を知る機会になり認めたり、友達の工夫を自分の製作に取り入れることも増えたように感じる。また、疲れてそこで休憩することで、また頑張ろうとする場所になる。



役割分担



YouTube動画

協同性とドキュメンテーション
リンクQRコード



友達の活動を知るドキュメンテーションと休憩所

特別なプロジェクト活動



七夕会人形劇映画製作 ICTで深まる創作活動

年長組では毎年、「七夕会」という行事で年中組、年少組に見せる人形劇映画を制作します。この活動ではICTを使ったペーパースーツ製作、絵の具などを使った小道具製作、ICTを使ったアフレコ・音楽製作など多様な活動をしていきます。完成に向けて、クラスで話し合いをしていきます。ICTを保育に活用することの利点はいくつかありますが、製作物を直す時、短時間で済ませることができ、話し合いに多くの時間をかけられるようになりました。ICTは絵を描くにしても、間違ってもすぐにやり直せることが大きな力です。絵が苦手な子も意欲的に描きます。また作った物を手軽に友達に見せることができるので「いい!」と認め合う姿がたくさんみられます。

荒尾第一幼稚園が気づいたこと



iPadで登場人物を描く

話し合い・課題解決・感性・協力



1.「うごくもの」「うごかないもの」
を見つけ出す話し合い。



2.背景画製作。星空は筆に絵の具をつけて、筆と筆を小刻みにぶつけて絵の具を細かく塗す技法。



3. 小道具製作。試行錯誤を経て数人の子どもが関わり、完成させた。



5.舞台裏 どのように動けば良いか確認。



6.振り返り 演出の検討。この振り返りが大切。



7.効果音探し



8.効果音を検討



9.iPadに効果音録音

YouTube動画リンクQRコード
別の年度の「映画制作」 年長組 振り返り vol.2





背景画 協同製作 iPadを使ったBGM製作 自分達で作る劇 年長組

本園Blog記事 実績記録

行事「ごっこランド」に向けて劇をみんなで作り上げる活動です。共通の目的に向かって活動を進める中で、自分の力を発揮しながら友達と一緒に取り組む楽しさを味わえるように劇作りの活動を行います。

荒尾第一幼稚園が気づいたこと

劇作りでは、セリフ、小道具、背景、BGMと子ども達と一緒に作ります。自分達を作ってできたものを、劇に使用することでやる気につながっていきます。また、「自分たちの劇」という自覚からより良いものにしようという気持ちも生まれます。



話し合い・認め合い・振り返り・協同性・自立心



セリフきめの相談



劇の中で使われているBGMは全て子ども達が作成。iPadの中にはいろんな音があることを知り、自分が担当している場面にぴったりの音をさがす子ども達。



劇に使う道具作り

小道具を作っていくときには「この方法で作ったらいいと思う」と自分の思いを伝えたり、友達の提案を聞いて思ったことを話したりして1つずつ作りました。



疲れているところの演技



雪だるま重ならないようにしましょう

自己効力感を育む劇の練習「先生は見ていてどう思う？」

練習ごとに振り返りの時間を作っていました。

「ここが少し難しかった」「じゃあどうやったらいいと思う？」「こうしたらいいと思う!」「それめっちゃよかった!」と、話を聞きながら人がやっているのを見ながら、少しずつ改善していきました。「この前はできなかったけど今日はみんなできていたと思う」など自信を持って取り組んでいたように感じます。子ども達の自分達はできる!と信じて練習する気持ちはとても素敵だなと感じました。自分達でやっているだけでは分からないと感じた様子で、「ビデオにして見せてほしい」と保育者に言いに来たり「先生は見ていてどう思う？」と質問してきたり、より良い劇にしたいという気持ちも伝わってきました。劇づくりを通して、友達と協力して頑張る楽しさや充実感を感じられたように感じます。



自分達の演技を動画で確認中



100階建てのいえ と 太陽系 4歳児

子どもたちにあった活動

保育室に100回建ての家コーナーを設置しました。興味を持った子どもたちがその場に集まった時に、「100階建ての家を作ってみない？」と提案し、絵本を読みました。

今回の取り組みでは画用紙の大きさも小さめに準備し、1つを完成させることで4歳児クラス5月の子どもたちにとって程よい手応えを感じることができるよう意識しました。遊びの時間での取り組みでしたが、クラスの全員が関わり、家は天井まで続いていきました。

自立心の深まり

荒尾第一幼稚園が気づいたこと

数日間にわたるプロジェクト活動は日が続つごとに子どもたちだけで進めていくようになり自立心を育む機会となりやすい。

最初は保育者と一緒に始めたことを、自分たちだけでやってみようとする自立心、個人での製作から協同製作への変化や作品の深化、夏祭りまでに全部完成させたいという目標を設定し意欲を持って活動する姿へ変わっていきました。

「広がり」と「深まり」



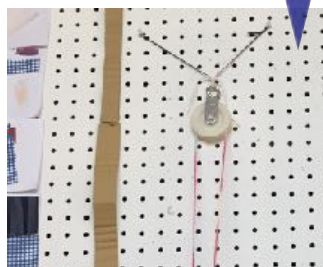
壁に貼った動かないエレベーター

100階建てが天井まで作られる。100階建てを使ったごっこ遊びの展開からエレベーターが作られる。

箱を持ってきて作るのではなく、画用紙から立体が作られる。過去に経験したことが影響していると思われる。エレベーターは遊びの中で子どもたちが改善していきました。



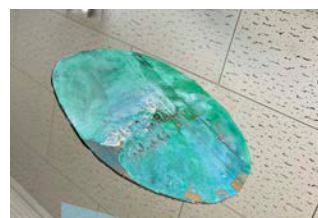
毛糸を滑車のように使った動くエレベーター



先生がいなくても登ったエレベーターが降りてくるように本物の滑車を使う



太陽作り直し
・ 深まり



太陽から様々な惑星へ ・ 広がり

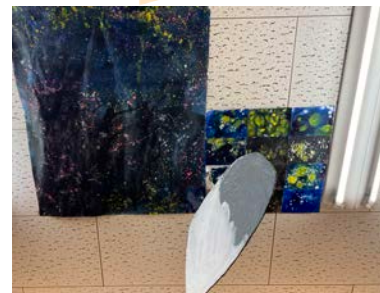


太陽を大きく作り直す

共同制作へ・ 広がり



青空、広がる



星空を広げる

宇宙空間への「広がり」



お話づくりをしよう 5歳児



〈素材との出会い〉 (5月下旬)

素材置き場を子どもの目につきやすいところへと移動し、どんな素材があるのか見たり、触ったりする時間を作る。ここには色々な材質の紙や、アルミ、半透明の板などを置き、子ども達が好きなものを選べるようにしている。また、その素材を使って描く時間も設けた。この時、子ども達に人気だったのはこれまで使うことの少なかったアルミや半透明の板だった。キラキラしているものや透明な



ものというところに魅力を感じていた。

選んだ素材によって、描くもの（油性ペン、クレヨン、鉛筆など）も変えていく姿が見られるようになった。



気泡緩衝材に色を塗って光を当ててみる。素材の特性と光(OHP)に利用できる組み合わせを知る。透明なものは壁に映るということを子ども達は知った。



「これに描いても映るかな？」という保育者の投げかけに対して、興味を持ち試してみる。何度か試して、OHOに利用できる効果的な素材(ビニール)を知る。



絵を重ねて映ることを試して確認する。絵が重なり場面が変わることで想像が喚起され自然とお話ができてくる。自分で言ったことが形にできる楽しさを感じる。イメージを言葉だけで伝え合いながら、次々に行動に移す。

特性に気づく 試行錯誤 予測



クラスに広まり、色々な子がお話を作る。出来上がるとみんなに披露できる場を作るようにした。作ったお話が収納できるファイルを用意し、いつでも作った話で遊べるようにする。



色々な物を活用してお話を作る。



音楽会の話だから音楽が流れたらいいんじゃない」と5月頃お化け屋敷を作った時にBGMをiPadで作ったことを思い出し「iPadで作ればいいんじゃない」と考えて作っていく。



七夕の日に年長組が映画を作って披露する行事があった。絵本を題材に作っていた。映画作りが始まる前に保育者がクラスに話すと、1人の子が「自分達で（お話を）作ったらいいんじゃない」と提案する。周りの友達も「いいね！」と賛同し、今回の映画作りは脚本から作ることに決定した。(P6参照)

より良くしていく 友達と深める・自立心

荒尾第一幼稚園が気づいたこと

お話をより良くしていく過程で子ども同士の話し合いが始まった。過去に経験したことを元に話し合い、今現在の課題に織り込み、編み込んでいく。自分たちのプロジェクトをより良くしていくことで自立心を感じる活動になった。この活動が映画作りまで発展したことで、子ども達にとって満足感や達成感を味わえたいい経験になったと考える。



年少組デザイナーズ いろいろな素材で工夫して作る

秋にドレス作りが始まる。

きっかけとなったのは、新聞ドレスを作っていたある子でした。毎日朝登園するとドレスを作っていました、一度脱ぐと破れてしまうことが問題でした。そこで、ビニールでも作れることを知ってほしいと思い、少し大きめのカラービニールを素材置き場に置いておくことにしました。カラービニールでの洋服は、いろんな子どもたちの目も引き「大きなビニールちょうだい！」とたくさん言いに来た子どもたち。「もうこれだけしかないの」と伝え、大きなビニールは出せませんでした。すると、「これ貼ったら大きくなるよね？」と張り合わせ出した子が出てきました。パッチワークのようなデザインで、「それいいね！！」と共感した子どもたちがそれぞれ作り出したことが、今回の遊びに繋がってきたように思います。



友達に広がる

工夫・広がり・思いを描く・客観的視点・深まり



友達作品が見える環境

遊びが進んでいくごとに、保育室の環境も少しずつ変えていく。・子どもたちが友達の様子に興味を持ちやすいような場所であること・新たにやる気が湧いてくるような場所にすること。2つを共通の意識した。



デザイン画が描ける環境を用意

作りたい気持ちはあるけれど、何から始めたらいいのかわからない子どもたちもいた。そこで、それぞれデザインを描く環境を作った。自分の着たい洋服を描くと、そのイメージに合わせて土台となるビニールの色を選んだり、「こういう飾りが付けたい」など自分の思いを保育者に伝えてくれるようになった。伝えることがうまくできたことで、一緒に作り方を考えることもできるようになった。



「先生も洋服作ろうかな」と子どもたちに伝え、一緒に作り始める。すると続々と近くにやってきて、「手伝ってあげる！ちょっと巻いてみて！」と積極的に手伝ってくれた子どもたち。人に作ってあげる楽しさや、いろんな角度から洋服を見ることができるので作りやすさを感じているようだった。



年少組の深まり

この姿もあったので、マネキンを作って自分たちの洋服も見やすくなるようにした。作っているものを今までと違う視点でみることができると、より作り込めるようになった。そでを作り始めた。

荒尾第一幼稚園が気づいたこと

年少組がこんなに深い活動ができると思わなかったのも、この時、結構驚きでしたが、子どもをよくみて、適切なところでよい関わりをすると環境次第で年少組でも活動は深まるのだと学んだ出来事だった。

活動を展開させる「広がり」と 改善・解決していく「深まり」の活動を 生み出す環境は、見える環境と見えない環境の充実

荒尾第一幼稚園が気づいたこと

見える環境

「面白そう」ところが動く環境と 思いを実現できる作業場・アトリエ

「広がり」と「深まり」を目指したプロジェクト活動を振り返ると、最初に「やってみたい」「使ってみてみたい」「面白そう」という興味関心を持つ心が動く環境が重要となります。そして、その時々を実現したいという思いが叶えられるアトリエのような作業場や、材料や素材・道具が揃っている環境が必要です。物を用意する時、配置の仕方、子どもにわかりやすい置き方、提示の仕方など十分に考える必要があります。4歳児の太陽系製作では、ポスターカラーなどを並べて子どもたちに扱えるようにしたことは、展開していく重要な要素になっています。

5歳児の活動では、素材を種類別に整理して並べました。画材も綺麗に並べました。みるだけで手に取って見たいくなる環境を作ったことから始まったことだと考えられます。



保育者の適切な関わり

子どもたちに状況を見えるようにすること、視覚化したり、気づかせる言葉掛けも重要な環境になります。

見えない環境 1 ごっこ遊び・想像の遊び

活動を広げたり深めたりすることに重要な目に見えない2つ環境があります。1つは「ごっこ遊び」です。

4歳児の「100階建ての家」の最初の大きな展開は「エレベーター製作」と思われるますが、これはその場を利用して行われていたごっこ遊びから生まれました。そして、ごっこ遊びをいつでもやりたいという思いから「エレベーターの改良」という深まりが見られました。5歳児のお話作りでも想像で遊ぶ「ごっこ遊び」が活動を展開させるそのものでした。

見えない環境 2 編み込まれる過去の経験

2つ目は「過去の経験」です。物事が深まってくときに過去に経験した方法・技法が使われることが度々ありました。その問題に過去の経験が**編み込まれる**ことで強度が増すように良くなっていきます。エレベーターの立体製作、滑車、星空の描き方、iPadのBGM製作などです。



電車



集中



探究の過程

見立てる

物語を描く



1 保育者を模倣する



2 試す



3 自分が感じたものを描く

荒尾第一幼稚園が気づいたこと

「これで〇〇を描こう」ではなく、子ども達の感じたモノを表していく描く活動。最初にお話(ごっこ遊び)を聞かせる導入から活動に入る。とても集中し没頭する活動になった。

色で遊ぶ



筆を叩いて絵の具をまぶす技法。
星空作りによく使われています。



星 荒尾第一幼稚園の子どもたちの得意技

没頭と集中

荒尾第一幼稚園が気づいたこと

現在、荒尾第一幼稚園では数年前から保育環境を見直し、モノや技法、素材をたくさん配置するようにしています。数日間続く遊びにはならなくても、子どもたちが集中して物事と向き合う姿があります。「集中」や「没頭」、そして「探究しようとする姿が見られます。その体験の積み重ねがプロジェクト活動で見られた深まりや課題解決に編み込まれていったと考えられます。



透明にお絵描き



大きな文字



大きな絵



一生のうち、何度、自分より大きな
絵を描くでしょうか。

影で遊ぶ



影の遊び



影絵

影は大きくなります。物によって色もつきます。作品が出来やすいです。物・光源・距離を組み合わせ遊びます。



どうみえるかな？



影を撮影



色の光を写真に撮る



秩序ある並べ方



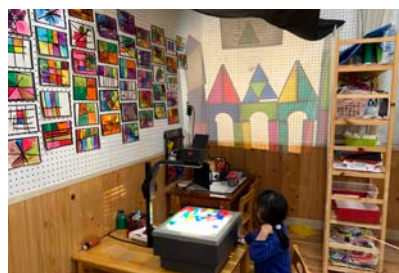
リズムのある作品



色の光



映像で遊ぶ



色と線 形

モノで遊ぶ



工房



白い絵の具で遊ぶ



磁石



鏡に隠れる



木で製作

遊び方は決まっていません。君はどうやって遊ぶ？

いろいろな感触



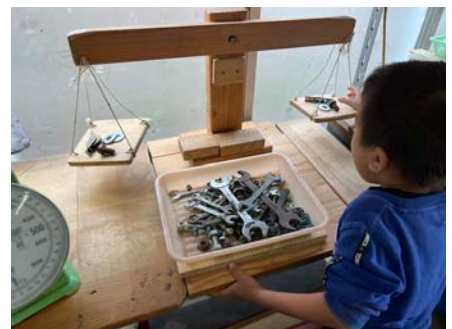
並べる



感触



土粘土と鉄



重さ

やわらかい物、ざらざら、ちくちく、カチカチ、スベスベ 室内に置きづらい物が置ける半屋外空間の工房です。



風の動きと色の痕跡で遊ぶ



泥の感触



泥ダンゴの修理には、水と技術と太陽の熱が必要です。



暑い日、「影を踏めば熱くない」ことを知りました。



水の絵の具 太陽の消しゴム



水と漏瑚と雨樋



漏瑚の使い方を自分で見つけ出します。
自由な世界に住んでいます。



雨樋遊び

土と砂と水は、子どもの大切な遊びです。
光と風も遊びの中で感じます。



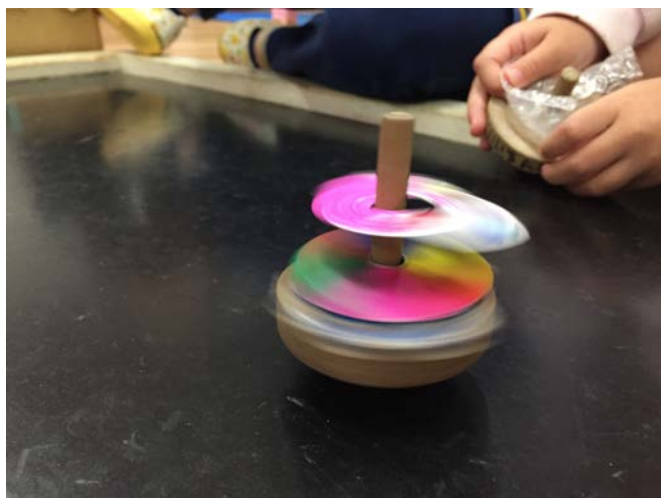
流れる痕跡



軌跡を見つめる



滑車とビー玉の動きを追う



回転を見つめる



渦巻きを見つめる

動くモノは不思議!

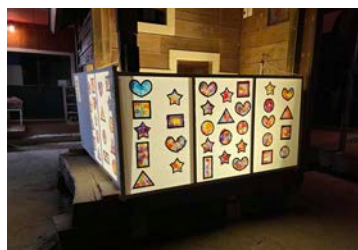


電球をつける

ついた



夏祭り



夜の幼稚園 氷の灯り

灯りの原風景

幼稚園はいつも明るい時間に過ごしますが、機会があれば「灯り」の思い出を作りたいと思っています。

中庭の畑



スナップエンドウ



虫取り網を使えるように作る3歳児



野菜の感触 匂い



中庭 虫と緑



里芋の葉っぱに水の玉



スイカ



虫に関する子ども会議～中庭のパラソル

寒い日



さむい



翌日の幼稚園



缶蹴りしていると雪が降り出す



氷作り



大雨の翌日



日常の造形作品



布で作った空間

日常の園生活での多様な体験が、未来の遊びに編み込まれ、
広がりや深まり生み出し、充実感を味わっていきます。



大勢で遊ぶ。ルールの必要性を学ぶ。



白いものたちの音は聞こえるのか？



いい音!